地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>・運営推進会議を確実に進めていく中で、地域の代表や家族、市町村職員と交流を深め、お互いの持ち合わせた情報をもとに地域住民とのふれ合いの機会を増やしている。</p>		<p>・1年に1回の家族会に地区(下高隈町と東原町)の高齢者20数名を招き一緒に昼食をとりながら歓談する。・両地区の運動会、文化祭等に(年2~3回)入居者が参加している。・地区小学校から5.6年生が来園して(年1回)作文読み、肩もみ等のプレゼントがある。・市内ボランティアグループのうた、踊りなど年3~4回と石鹸、タオルなど日用品のプレゼントがある。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>・明るく、楽しく、仲良く、和やかに輪になって暮らすこと</p>		<p>・運営理念については日々2回以上は全員で唱和しており、入居者も職員もお互いに足を引っ張るようなことなく、人間関係を密にして、日常生活がより楽しいものであるように努力している。・職員に於いては、月1回~2回(緊急の場合)このような話し合いをして両ユニット間や組織のルール等について学習している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p> <p>・家族や地域の方々の来園については、ホームでの暮らしぶりを少しでも多く理解していただくよう出入りされる方に比較的自由に暮らしぶりを見ていただいている。</p>		<p>・入居者の外出先でも来園される方に対しても、グループホームが特別ではない自然体であることを感じ取ってもらえるように普通の暮らしを続けてもらえる支援をしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>・経営者が地元であり、ホームにも隣近所の人と気軽に声を掛け合える環境にある。</p>		<p>・庭掃除をしている職員に近所の方が、庭ホーキを作ってくれたり、畑を耕して下さったり、年末掃除の手伝いの話があるなど、たびたび声を掛け合っている。・入居者が無断外出した時など連れてきてもらうこともある。・農業振興地域の為野菜類や加工食品などたびたび届く。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>・自治会には経営者が参加しており、事業所はその他の行事に参加して交流している。</p>		<p>・地域の文化祭、運動会、小学校の発表会等に招かれて参加している。一緒にゲームしたり踊ったりしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・相談ごとがたびたびある。(ホームに来園又は電話等)		・地域の高齢者の方の相談事に対してはお会いして直接、又は電話で応じている。件数としては今後も増えそうである。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・取り組んでいると思っている。	○	・グループホームとしての運営上の基準を満たすと共に利用者やその家族に安心と安全のグループホームとして満足してもらえる状態に近づけるような細やかな支援をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議での意見や提案はサービス向上の為に役立っている。		・地域の代表や家族代表、市や包括支援センター等からの意見や提案は謙虚に受止めて、サービスの向上に努めたいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市町村の担当者とは提出物等で顔合わせできる機会を通じて助言や指導を受けている。		・サービスの質の向上については市町村担当者も真剣に指導や話し合いに応じて下さっているので今後も機会を増やしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・経営者も管理者も学ぶ機会を得て学習している。現在では制度の利用者はない。		・今後必要があれば活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修の機会があれば参加したり、月1回の職員会議に於いて、施設長や管理者から虐待の防止について話をしている。		・時折スタッフの乱暴な言動や敬愛の念を忘れたような言葉が聞かれることがあるので、今後はもっと職員と話し合いの機会を多くしていく。(お茶や食事の時間なども利用する)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>・今後も同様にしていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>・すぐにできることはその場で、時間を要することはその理由を話して今後も「すぐやる」ことを目標にしていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>・今後も続けていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>・今後も同様にしていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>・職員の意見は貴重だと考えているので、言葉にできないことや出ないことも察してより良い関係を保って仕事をしていきたいと思っている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>・今後も同様にしていく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>・運営者も管理者も考え方としては、同じ職員に長期に亘って勤務してもらいたいと考えており、今後も職員一人一人を大切に思う処遇をしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・可能な限り内外の研修を受ける機会を逃さず、介護の経験年数に応じた資格取得ができるように進めている。</p>	<p>・今後も介護経験の実績のある職員には、必要な資格の取得ができるように支援をしていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・大隈地区グループホーム連絡協議会に於いて各レベルの交流会や勉強会の機会が多い。必ず参加している。運営者が意欲的に取り組み役員も引き受けている。</p> <p>・鹿屋市との意見交換会等も行われており、サービスの向上に役立っていると思う。</p>	<p>・必要ならイベント等の場合には係員として、職員をどしどし参加させ、様々な面から他のホームや施設の職員との交流を図り、よい情報を反映させていきたい。又、忙しいと思われるが相互の訪問も実現したいと思っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・言葉によって運営者から詳しく話をする。</p> <p>・スタッフで食事にでも行って他愛のない話でストレスを軽減したらどうかと金一封が贈られる。</p> <p>・少人数毎に日帰り旅を提案する。</p>	<p>○</p> <p>・職員サイドから全面的に賛成されない。これまで忘年会以外に楽しく食事会などしていないので今後はもっと進めて行きたいが、各家庭の事情等も異なり(時間制限や経済的に)難しい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・職員各自の努力や勤務状況の対価としては8月と12月に賞与として反映されている。勤務年数や資格取得に対しても金一封が贈られる。又運営者がしっかりとした考え方で職員に叱咤激励をするので職員は頑張る気持ちが持てると思う。</p>	<p>・常に向上心をもって働いていきたい気持ちは管理者、職員共に同じと思う。日々反省をして気づきをバネに介護の仕事に努力していく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入居後は特に本人の戸惑いがないように、要求や希望をその都度よく聞いて、要望に沿う介護をする。徐々に要望通りでは本人の健康上よくないことや、対人関係についてたびたび話し合いをして馴染みの顔となり、馴染みと仲間となって信頼関係を築くようにしている。</p>	<p>・今後も本人が困っていること、不安なこと等はできるだけ早く解決できるように努力して幸せな時間を長く保持できるような介護をしていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・初期には家族の可能である限り、ホームに来園してもらい話を聞いたり、実際に現状をみてもらいながら、困っていることや問題点があれば、きちんと受止めて対応できる体制をつくっている。お互いによく話し合うことは重要なことと思っている。</p>	<p>・家族から信頼をしていただいて、利用者の方をお預かりすることが最も大切だと思っている。不信任を抱かれることのない介護への努力をしていこうと考えている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時に何をどのように必要としているかの見極めはできるが、他のサービス利用は本人と家族からの希望もなく現在グループ以外の介護サービスは利用がない。		病院受診については、家族の付き添いが基本であるが、家族の事情によってはホーム側で対応している。送迎の費用等の取決めは一切ない。その他要望があったり緊急等は連絡をとり合ってホーム側で対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	本人は認知症であり、グループホームでの生活は理解し難い場合が多い。徐々にしか馴染めない為、スタッフは試行錯誤をくり返し、できるだけ早く馴れてもらうように工夫を重ねている。		やさしい言葉かけや接する態度の柔らかさなど、不安をつのらせることのないように、利用の前に数回の来園をお願いしたり、他の入居者と一緒に食事をしてもらったりしている。時には家族も食事をしてもらうことがある。今後も同じようにしていくと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は共に洗濯物を整理したり、食材の下ごしらえをしたり、一緒に本を読むとか、作業療法によりひとつの物をつくり上げるなどを実践している。又昔話や思い出話をしみじみと聞かせてもらうこともあり、スタッフの知らない本人の歴史を垣間見ることもある。		知能は低下しても高齢者には立派な知恵がある。この知恵から私達スタッフも介護のノウハウを学び、有難いと感じることがたびたびある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居時に色々な話をさせていただく中で、グループホームがすべてを引き受けるのではなく、入居後もご家族には多方面に亘りご協力とご支援が不可欠であることを認識していただけるようお願いをしている。たびたび来園していただいたり、電話でお話できる機会を多くもつようにして本人の日常生活を支えている。		ご家族がたびたび手を患うことがないように、できるだけよい報告ができるようにと、心がけていこうと思う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は、とても良い、普通、なんとなくぎくしゃく、などさまざまであるが、グループホームで本人を大切に思う気持ちで、介護しながら連携をとっているうちにいつの間にか家族と本人の関係が徐々に良くなっていくケースもある。グループホームとしてもほほえましく嬉しい。		家族と本人のこれまでの暮らしぶりの中では、介護疲れや経済面、お互いの性格的なもの等から折り合いが悪くなってしまい、元に戻れないような場合もあり、あまり深く立入ることも困難な事例がある。せめてホームではお互いの関係をよりよい方向に見守っていききたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症高齢者は友達のことを忘れてしまう方が多い中で、同級生だったとか、一緒にディに通っていた方が来園して下さるととても嬉しい。家族でも本人が特に大切に思っている人や入居前に茶飲み友達、旅行友達であった方の面会は本人の喜びもひとしお。入居前に「又どうか来て下さいね」と何度もお願いしている。		認知症は「何もわからない」と思っている人が多いが、「わかる部分も多い」ことを理解してもらう為に、来園される方にはその都度話をしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難聴により孤立しがちの人もあるが、日常的に顔を合わせているうちに、身振り手振りで理解し合える仲となり、注意し合ったり一緒に洗濯物をたたんだり、時には意見が合わずに衝突しながら仲良く暮らせている。		お互いに不満がつのらないようにスタッフが仲をとりもったり、ゆっくりと話相手になったりしながら、ストレスのたまらない入居者であってほしいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の家族にも、他の施設に移られた利用者の方々にも時折りは近況を聞いたり訪ねたりしている。年賀状などのやりとりもある。		今後も続けると思う。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	早起きの人、朝寝をしたい人、昼寝をする人、しない人、外出好きの人、出たくない人、嗜好品にしてもさまざま。可能な限り本人の意向を大切にしていると思う。	○	外出好きの入居者に対してもっと公園や買い物に連れだしたいと考えている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はその人の職業にも関係しているし性格もあってさまざまで、地域的にも農家出身が多いので、季節や時期を肌で感じておられるように感じる。農作物の管理や取入れなど手伝ってもらったり、おしゃれに関心のある方は理容所でヘアカットすることを嫌うので美容院へ通うなど個々に対応している。		入居者個人の要望に応えながら時間をつくっては一緒に行動しながら把握をしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方はホームの流れは大まかなので、各人によってホール、居室、散歩、室内歩行練習、昼寝などや家事の手伝い、テレビ等、スタッフの声かけや促しの助言によってゆるやかな時間を過ごされている。		心身の状況は常に把握しながらその人に合った一日の過ごし方を見守っていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、介護スタッフ、計画担当者他関係者とはその都度話し合って介護計画を立てている。		高齢者は何か病気がでた場合、その病気が治癒しても、一段レベルの低下した状態で維持して徐々に体力や免疫力の低下につながると思うので、日頃から疾病や怪我などから護ること、発症したら早期回復に向けて努力するということが心がけていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に何かの状況が生じて入院した入居者が退院した時等には医師の情報提供書や家族、スタッフなど関係者と協議して見直しの計画作成をしている。		今後もそのようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践等は一日の介護日誌に記録し、記録と口頭により日勤者～夜勤者、施設長、管理者に報告されているので、入居者の情報はほぼ把握できている。個々の細かい記録については計画作成者や管理者によっても記録がある。		情報の洩れがないように今後も各職員と連絡を密に取り合い入居者の介護に役立てていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望には可能な限り柔軟に支援をしていると思う。		「これは決まりですから」「契約ですから」等と画一的ではなく何事もよく話し合っって一番良い方法で、その都度要望をかなえていきたいと思っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には相談苦情の第三者委員をお願い(2人)したり地区の駐在所には月1回のホーム便りを届けたりしてグループホームへの理解を深めてもらいたいと思っている。又地区消防とは年一回避難訓練を通じてホーム内と入居者の状況を理解してもらい協力を得ている。		今後も続けていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者とは日常的に会って話をしたり、電話で話をするなど情報交換をしている。		本人の意向や必要性があれば本人や家族が一番望まれるサービス利用に向けて努力していこうと思っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在では地域包括支援センターとの関係は2カ月に1回の運営推進委員会に参加してもらっている。	○	包括支援センターの機能性もまだよく理解できていない部分もあり、今後はもっと機会を見つけては交流していきたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては本人や家族の意向を重要視しつつ受診をすすめてきている。入居者はそれぞれにかかりつけ医があり、その主治医とは直接又は間接的に連携をとれる体制にある。		1～3ヶ所のかかりつけ医をもつ入居者のためにその主治医や関係者とは常に直接、又は間接的に連携を密にして信頼関係を保って適切な医療を受けられる支援をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症専門医と内科医の両方から診断や治療を受けている状況である。内科医でも認知症への理解や診断の方法(検査等)を実施される病院と本人と家族、介護スタッフ等からの聞きとりで診断される病院がある。</p>	<p>介護スタッフとしては医師との信頼関係が大切だと考えている。(本人の症状や他の疾病との関連性など詳しく相談できて助言がもらえること)</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>日常的に看護職と相談したり連携をとり入居者の健康管理に努めており医療に活用している。</p>	<p>今後とも続けていく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者の入院に際しては、入院中、その後の受け入れなどについて入院先の医師や医療関係者、家族ともよく相談し、可能な限り早期退院に向けて努力している。</p>	<p>今後とも同様にしていく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合、重度化に向かう早い段階から家族やかかりつけ医とはくり返し相談して、その方針はスタッフ全員で共有している。</p>	<p>今後とも全員で方針の共有に努力していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>そのようにして医療連携体制についても看護師や管理者が中心となり、家族も含めて検討しており可能な限りホームで暮らしていけるように努力している。</p>	<p>可能な限りホームで暮らしてもらおう。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>過去に住み替えのあった利用者に対しても家族とたびたび連絡を取り合い、住み替えによる異変について情報を交換している。</p>	<p>ホームに入居中のみに限らず、その後住み替え状況についても、折にふれ情報を交換できる環境でありたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけ等、スタッフの言動については、必ずしもそのような取り扱いをしているとは言えない。	○ 時として「あれ」？と首をかしげるスタッフの言葉使いや管理者自身も遠くから大声がでているなど気づき「はっ」とする。反省しつつ理想とする対応に近づけたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の思いや希望の表出がわかる限り意に添うようにしているものの、中々本人が納得できないような困難に会うこともしばしばある。	○ 認知症介護の知識や技術をもっともっと学習して行きたいと思うので、ホーム内外の研修参加や他の事業所との交流を深める為に努力をしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先に考えがちである。又たびたびその場面に遭遇する。	○ 目の前にある入居者の希望にはすぐに応えてやりたい思っているが「まだよー」とか「時間がきていないよー」「今食べたでしょう」など聞こえてくる。この言葉が本人の納得のいく方法で応えられるようにくり返し学んでいく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院に行きたい人、理容室で良い人、ホームで刈ってもらいたい人、染めたい人さままであり本人の希望に沿っている。	○ 今後も同様にしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの、特に食べられないもの、食事の形態など希望や状態に合わせており、行事や誕生会などは特に食事は楽しんでもらっている。台拭き、お膳拭き、かたづけなどはスタッフと一緒に楽しそうにやっている。	○ やれる人、好きな人ができることをやっていくことを続ける。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙者はないがおやつについては希望者は好みのものを楽しまれている。	○ のどに詰まらせやすい食べ物や、寝たまま飲食することのないように注意している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的には本人の便意の訴えとスタッフからの声かけによってトイレに誘導しているが、リハパンツ、尿取りパットなどを使用している利用者があり、少しでも減らしていこうとトイレ誘導の回数を増やすなど努力はしている。	○	まだまだ減らせるのではないかと考えているので、今後もスタッフ全員で検討を重ねて減らしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日湧かしている。その中で心身の状態のすぐれない人や拒否をする人など理由あって入浴しないこともある。入浴剤の香りを楽しみながら、とても良い時間が過ごせている。(バラ湯、しょうぶ湯、ゆず湯などある)		風呂は高齢者の最も楽しみのひとつであり、スタッフにとっては全身の視察のできる大切な時間帯である。元気に毎日みんなが入浴できることが望みである。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休息、夜間の安眠のためのそれぞれの居室はとても重要。他人を気にせず自由に出入りできる個室でゆったりと過ごしてもらっている。		気持ちよく過ごせるように支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全く役割を持たない人、洗濯物をしっかり整理できる人などさまざまあり、その人の過去の生活歴とも関係していると思う。		無理やり何かをしてもらうのではなく、その人は何が好きか、何ができるか、できることをできる場所で発揮してもらう。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力については、あまり望めないが、自分で持っていたい人はスタッフ複数により内容は確認している。		「失くした」時の備えとして誰々はいくら位のお金を管理していることを確認しておく。また外出先では(病院支払いや買い物)事務所管理のお金でその場の支払いを本人にでもらったりしていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にたびたび外出はできていない。ただ気象条件によっては裏に600坪の畑と600坪の芝生を有し毎日でも1日2回でも外出できる。		受診時の外出では本人の望む買い物をしたりドライブをして遠回りするなどを試みている。外出嫌いな人もいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参、花見など年に数回は入居者全員で出かけている。		墓参についてはたびたび行く(月に数回以上)人もある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話することで安心してホームの生活を送れる人に対しては大いに支援している。また本人からではなくても遠方に住居のある家族に対しては、ホーム便りや個人的な手紙で近況を報告したり電話で話をしている。		今後も続けていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームに来園された方々には椅子の準備や湯茶の接待など、少しでも長い時間いてもらえるように工夫している。又近況についてお互いに情報交換している。		同じようにしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。		今後もしない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関等に鍵をかけることはない。		今後も同様である。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時把握につとめ安全な介護を目指している。		さりげなく見守っていけるようにする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ひも、はさみなどの刃物などの持ち物は個々に応じて保管の状況を確認している。		調理用具等については、日常的にはひき出しに保管している。又調理の下ごしらえなどはスタッフと一緒に同じ場所で包丁等を使っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	病気はもとより早期発見に努め、転倒防止等については各人の心身の状況から注意深く見守り声かけをしている。		「ひやり、はっと」からスタッフ全員が学びとること、又職員会議等に於いて、再検証することで事故防止につなげていく。防火対策では「火を出さない」を目標に万が一に備えて年3回消防署と合同訓練をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の緊急時は連絡網に於いて体制は整っている。消防署主催の応急手当訓練に今年度は3回参加している。		今後も続けていく。 年に3回とはホームで1回、消防署で1回、救急の日に1回である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人では特に地区消防団にお願いして年1回の避難訓練が主である。		今後も災害時には協力の要請ができると思っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、又は来園時に個々に応じた話をしている。		できるだけ抑圧のない暮らしを続けてもらいたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日1回は全員のバイタルチェックをし月2回は体重測定をして日常的に食事や水分排泄、表情などにより健康度をみており平常より異常があればすぐに対応できている。		体調変化については介護スタッフ、管理者、施設長、家族により情報を共有してしかるべき対応により平時に戻せるように努力している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が使用している薬の目的や副作用についてすべての理解はできていないと思う。	○	まだまだ薬については認識が足りないので今後はもっと知識を深めてもらって服薬支援に努めていきたい。(職員の意欲にも関わっている)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常習性便秘で緩下剤服用の服用の入居者もあるが快便につながるように工夫はしている。		医師の処方による緩下剤では多すぎることもあるがこのような時には適度の便通に戻す努力をしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食の口腔ケアは必ず実施している。		歯磨き粉、歯ブラシ、義歯洗浄剤や義歯調整剤などを常時整備しておく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養や水分量はほぼ一定しているが中々水分をとらない人や少食の人などについては、他に考慮して一定量に近づける工夫をしている。		飲み物の種類を増やすこと。栄養的には主食の他、肉、魚、卵、牛乳、野菜、海草、豆などをバランスよく摂ることを考えて献立をする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症については年間を通じて予防していくもの、季節的なものなど考慮してマニュアルで学んだり、その都度スタッフ同士が共有して取組むなど努力している。		今後も十分に気をつける。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等については塩素系殺菌消毒剤で消毒をし食材は市販のものは、その日の購入でその他は自家製野菜を使用、長期に冷蔵庫に保管するようなことはない。		今後も同様と思う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく出入りができていると思う。		これまで通り自由に出入りしていただきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとっての不快感はないように思う。光に関しては高齢者は敏感であり最近天井の豆球から足元灯に取り替えた。		入居者にとって不都合な部分は可能な限り居心地のよいように工夫していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分でもその人によって好きな場所があり思い思いの場所を確保しておられると思う。		時々場所の確保において、いさかきもあるがその都度仲介をして納得してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れた家具や好みは個々によって異なり、何かを置くことによって幻覚や妄想におそわれる場合もある。又きれいに飾りたい人それぞれである。壁の展示等による恐怖を訴える人もあるので注意している。		異食行為などのある入居者には造花や壁飾りなども弊害があるので本人の心の動きとも向き合う必要がある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調、加湿、換気には常に注意している。		日々の気象条件によく注意して、衣類、寝具等にも考慮して気温差による風邪症状には十分に注意していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべり止めや手すりなどの設置、共用空間にできるだけ死角のない建設がなされている。常に見守り、声かけができる状況にある。		歩行補助具も利用者の状態に合ったものを使い、自立ができるように工夫している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	介護スタッフが利用者は何ができるのか、どこまで解るのかを理解して混乱しないように見守りたいと思っている。しかしできないことを強調したり、失敗について論議したりすることもあり今後の課題である。	○	認知症の人は何もできないのではなく、ゆっくりひとつひとつ話をすることやその人の日常の言動から、わかる力を引きだして混乱しない喜びのある暮らしを支えていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の中庭は日向ぼっこに最適であり、西側芝生は散策やグランドゴルフのできる600坪の土地がある。		温かくなる春が待ち遠しい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者の
		☐ ②利用者の2/3くらいの
		☐ ③利用者の1/3くらいの
		☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある
		☐ ②数日に1回程度ある
		☐ ③たまにある
		☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族と
		☐ ②家族の2/3くらいと
		☐ ③家族の1/3くらいと
		☐ ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自家用の畑を600坪程有しており、季節の野菜を豊富に使える。(家族来園時にはおすそ分けできるほど)

地域に住み慣れた経営者は近隣の方々とも親交が深く色々な人が訪ねて下さり何かと協力や支援がもらえていると思う。